平成２９年度第３回宇陀市総合教育会議　議事録

開催日時：平成３０年２月２２日（木）　午後３時～午後５時３分	
開催場所：宇陀市役所３階　庁議室	
構成員出席者	竹内幹郎宇陀市長 福田裕光教育長 寺澤亮一教育委員　岡本憲明教育委員　巽礼子教育委員　吉川壽一教育委員
説明者	中西教育委員会事務局長 出山総務課長　藤田教育総務課長 太田主幹　小松原教育指導主事　鈴口教育指導主事
協議事項	１宇陀市教育大綱にかかる事業実施概況について ２宇陀市生活行動・学習活動調査結果について ３幼少連携・接続について
議事（発言内容等）	
市長	本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。 平成２９年度も残すところ１月余りとなりました。今回の成人式では２８５名が成人を迎えられましたが、非常に少子高齢化が進展しまして、宇陀市の出生数は１月末現在で１０２人という報告を受けております。従前と同様に２月と３月で２０人程度出生されるとしても１２３人ぐらいというところで、非常に危惧しているところであります。８年前に戻りますと、平成２３年の成人は４００人おられました。平成２２年度の出生者数は１６３人という報告を受けています。非常に少子高齢化が進展していて、少ない子ども達に対してどのように教育環境を整えていくかという事は私たちにとって大きな使命であります。教育の場だけではなく、一般行政においてもすべきことをすべき時がきているのではないかと思っています。財政的な変化はあるのですが、宇陀市の教育は不変ですので、しっかり教育環境を整えて、子ども達を支援していく体制づくりができたらと思いますので、忌憚のないご意見を頂きますようよろしくお願いします。 それでは、宇陀市教育大綱にかかる事業実施概況について、事務局から説明していただき、皆様からご意見をいただきたいと思います。
教育総務課長	＜平成２９年度宇陀市教育大綱にかかる事業実施概況について説明＞ ・平成２８年度から５つの基本方針に沿って取り組み、４年の計画のうち２年が経過し、中間点検として現況を報告、今後に活用する。 ・５つの基本方針に沿った実施を指標との比較及び推移に基づき総合的に判定して評価し、その現状と課題、今後の取組みについて説明
市長	ご意見をよろしくお願いします。
寺澤委員	７頁、９頁に特別支援教育巡回指導員設置事業がありますが、特別支援教育巡回指導員からどの様な報告を受けて、どの様な課題があるか教育委員会として聴き取りしていますか。
教育指導主事	特別支援巡回相談ですが、市から各学校に連絡を取り合って数回ずつ行っております。その中で、担当している特別支援教育巡回指導員と１日の終わりに、振り返りとか、先生方に助言、指導して、こういう事をした方が良いという内容を報告された上で、また次に来られた時にどのように変容しているか、そのやり方はどうだったか、ということを繋いでもらうようにしています。

	指導主事も教育相談に関わっている臨床心理士、スクールカウンセラーを交えて、月に１回スマイルネットワークというところで子どもの状況を共有したり、把握したり、必要に応じてそこを繋いだり、学校の先生にこの部分をもう少しアプローチしていかなければいけないという事を話しております。 私たちもしっかりと見て、把握して、より良い支援ができるようにしたいと思います。子どもが変わっていかないと何もなりませんので、そこを強く受け止めてやっていきたいと思います。
教育指導主事	昨年度末に特別支援教育巡回指導員の先生と通級指導員の先生を中心に、学校を巡回した上での各学校の課題などをヒアリングしまして、今年度の特別支援に関する学校の研修の中心の柱として定め、本年度始めさせていただいているところです。また、スマイルネットワークで細かに情報交換はしているのですが、本年度末にも来年度のヒアリングをして、その辺の課題を把握しながら対応を考えていきたいと思っています。
教育長	教員がそれぞれの力量を培おうとしながら、自らを高め、子どもと共に成長していく部分であるとか、教育委員会としても、こちらに入ってきた時に事が大きくなってしまっていて、保護者の方の不満とかが多くかかってくるケースもあるので、保護者の満足度も含め、足らない分、至らない部分を校長がどの様に把握しているのか、校長を中心として同じ意識、同じ取組みでできているのかを再度検証しながら、機会があるごとに訪問して進めてまいりたいと思います。
岡本委員	１２頁ですが、［指標から見た現状と課題］を見直したのですが、小学校で「自分の考えを相手に伝えられますか」の数値は全国と比べても低く」と記載されていますが、これはどこに載っているのですか。
教育総務課長	「自分の考えを相手に伝えられますか」という数値は同頁の指標には掲載しておりませんので、その内容を指標の中で、全体として分析しています。誤解を招く表現については修正をさせていただきます。
巽委員	毎回、学力テストの分析を見て、どうしても中学生の数学が気になります。確かに、追跡調査した結果は若干上がっています。小学生の時はすごく大変で、中学校３年生になってガクっと数学が難しく感じる子どもにとって、このままで良いのかなと様々な支援の方法を考えるのが私たちの仕事だと思います。家庭学習が少ないとかだけではなく、つまずくところは中学校３年生の数学と問題点が分かっているのであれば、そこに何らかの支援を学校でしていかないといけないと常々思っているのが１点です。 それからもう１つ、国語だけじゃなく数学もテストを読んで回答するので、読解力は大事です。最近は、ＡＩ化しており、何でも便利になって読まなくても理解できるシステムが生活全体に普及しているので、例えば、家にいてもお風呂が沸いていますとか、ドアが開いていますとか、音で知らせてくれます。説明書を読まなくても、あるいは自分で考えなくても生活が便利になってきていると、それと読解力とは関係があると思います。それは、保護者も含めて読解力が低下していると思うので、先生たちもそこを工夫してもらって、高齢者にとっては優しい生活を作らなければなりませんが、子どもにとっては少し困っても、良い意味での教育的配慮のある場面をわざと作ってあげなくてはならないのかなと思います。 例えば、今回の問題は、Ｂ問題も含めてそこまで難しい問題ではないと感じました。ある程度の回答の予測は立てることができそうなのに、なぜこんなに点数が低いのかなと感じたので、普段からあまり優し過ぎる、親切過ぎる教育というのもいかがなものかなと思います。この読解力の低下と関連して学びのスタイルも考えていただけたらと感

	じました。その２点です。
吉川委員	この実施状況表を頂いて、様々なアンケートをとって頂いて、参考にされるのはいいのですけれど、これを一体何に活かしていくのかという事が見えてこないと考えています。例えば、確かな学力につきましては、いつまでたっても、時間が無いとか、問題が難しいとか、やはり読解力が足りなくて、要するに１回読んで理解できないから時間を費やして次の問題に進めないのであろうということなど、先生はこれらを解決するには何をすれば良いかという目標を立てて、残り２年間で取り組んで頂きたいと思います。 それから、学業につきましては、小学校６年生とか中学校３年生だけの問題ではなくて、他の学年でも同じ傾向だろうと考え、小学校１年生から中学校全体までのことを考えて取り組んで頂きたいと思います。規範意識は徐々に小学校から中学校にかけて善悪も身についてきますので、今後の取扱いについても今までどおりで良いのかなと思います。 また、気になったのは、家に帰ってから勉強する時間がないという答えが多くあって、保護者も家で勉強させる方法が分からないのかなと思います。こういうデータに基づいて、家で勉強する方法はこの様なものがありますよということを担任の先生が保護者にアドバイスする機会を作ってあげたら、保護者も子どもと向き合いやすいのではないのかなと思います。それらのアドバイスをしてあげて、後の２年間で目標達成できる成果になって欲しいと思います。
教育総務課長	委員の方々のご意見については、大変重要な課題と考えておりまして、最初も申し上げましたとおり、この学力学習状況調査の指標というのは、年に１回４月の調査を毎年比較しております。１年に１回の報告では実態が見えないということがございますので、１２月に市独自のアンケート調査をしまして、児童、生徒の状況を把握し、それを分析して、今後の施策に活かしていきたいと考えています。
教育長	私もなぜ、算数、数学が弱いのかなと思っています。読む力、考える力、発表する力と、便利になればなるほど思考力が落ちていき、実際に県のデータとか参考資料を見ても、テレビとかゲームとか１時間程度ならある程度刺激になり、ストレス解消して次の意欲に繋がっていくそうですが、それ以上になると、学習にも影響が出てくる部分があるそうです。スマートフォンでも同じ様なことが言えるそうです。やはり、読書の習慣であったり、新聞を読んだり、家に帰って話の内容を伝えたり、友達と意見交換したり、そういった部分は、非常に大事な要素があるのかなと思っています。読書の時間を設けているところは、それなりの成果が出てきています。ところが、算数、数学ではドリル的な繰り返しとか、中学校１年生の時にガタンとへこんでしまい、なかなか小学校の全教科を担任の先生に習うというシステムから教科担当になっていって、中１ギャップというのが宇陀市でも１２月のアンケートの中で分かってきています。小学校までの積み残しの部分を中学校の導入の中で把握して、その子に合った内容からスタートしていくような工夫をしていくべきだと思います。その子の力を把握しながら１つ手前の学習から入っていく工夫もそれぞれの講師でしていただいていますが、正確に、より個別に絞った内容に迫っていけるようにしていかなければならないのかなと思います。 それから、吉川委員がおっしゃられた、どの様に活かしていくのかということについては、今は授業力、学びの意欲、家庭学習の３本の柱で行っていますが、そのどこに問題があるのかということで、それぞれ４つ、５つぐらいのシートにアンケートを加えて、全部で１５の質問を市内の小中学校全校にさせて頂いています。４月から１２月の経過を見ていくと、授業力の向上の項目で先生方の授業スタイルを統一していく、あるいは

	授業の目的をしっかりと話合う時間を作って、振り返りをしていくという、A校の実態とＢ校の実態が異ならないように宇陀スタンダートという授業力を揃えていこうという取組みを今年やりかけたのですが、そうしたら、１２月のアンケートにはそれらの項目が上がっています。ポイントを絞ってそこに有効な手立てをして行くようにしないと、幼稚園案件、保育所案件と調べさせてもらっていても、保護者は保育所に預けているのが多くて、働きながら子育てをされているという保護者が増えてきています。学校の方で一気に知識注入をされても、子どもたちの容量は限られているので、一気に入れて溢れてしまうよりは、毎日毎日１滴１滴少しずつ慣れさせていくのも家庭の中で大事であると、年長と小学校１年生、小学校６年生と中学校１年生というのではなく、早い段階で手を打てるように、低学年あるいは就学前という形で、中学校から小学校、小学校から中学校へ、こんな力が大事ですということを伝えながら連携を図っていくと、そういった部分も大事にしなくてはいけないということが浮かび上がってきたので、来年度そういったところに力を入れながら、保護者の方へ指導計画しているところで課題が出てくると思いますが、よろしくお願いします。
市長	調査も大事で、確かに具体的な事が分かるのでしょうが、ある程度の施策というのは方向付けが大事です。それも含めて具体的な議論も大切ですが、先生も含めて刺激することが大事だろうと思います。教育委員会事務局もしっかり指導して頂いて、よろしくお願いします。 それでは、次の議題にいかせていただきます。続きまして、２つ目の宇陀市生活行動・学習活動調査結果について、報告していただきたいと思います。
教育指導主事	＜宇陀市生活行動・学習活動調査結果について説明＞ ４月と１２月の調査結果について １　教員の指導力向上について ・授業の振り返り活動が必要 ・中１ギャップに対応するため小中連携が重要 ２　児童生徒の学習意欲向上について ・小学校から中学校に至って数学の愛好度が下がっていくので、数学の愛好度を上げ、学習意欲を高める取組みが必要 ３　家庭学習の習慣化について ・各学校において実態に沿った取組みが必要 ・中１ギャップに対応するため小中連携が重要 ・家庭への働きかけ 上記の１から３までの結果・考察から、平成３０年度の重点事業として３つを定める。 ⑴　学校教育における児童生徒の学習意欲の増進 ⑵　子どもたちの就学の経済的支援（２極化への対応） ⑶　１２年間の接続事業
市長	今報告していただいたことに対してご意見を頂きたいと思います。
岡本委員	先ほどから中１ギャップという言葉が何度も登場していますが、中学校４校の中で中１ギャップを無くすために取り組んでいる具体的な例があれば教えてください。というのも、小学校から中学校へとユニバーサルデザイン化が進んでいるわけですが、ユニバーサルデザイン化というのは、例えば、障がいのある方、能力が高い方、低い方、色々な生徒が平等に授業を受けていけるようにしていきたいということであると思いますが、その中で中１ギャップが毎年生まれてくるというは、当然減らさなくてはならない

	事になると思います。
教育指導主事	各学校において小中連携を行っていまして、その中におきましては、それぞれの学校において、例えば英語の授業が始まるということで、中学校の教員の方に小学校の方に出前授業という形で出向いてもらって、実際に中学校の授業を小学校の中で進めてもらっている学校もあります。
岡本委員	例えば、今の英語ですが、英語の授業で始めの this is a pen までは解ると、その次が解らなくなった子ども達が相談できる場所、自分がどこでつまずいたか分からずに英語の授業が進んでいくと思うのですが、その時に横から手を差し伸べてあげる様な体制作りはできているのでしょうか。英語だけではなく、数学、国語などの全てにおいて、いかがでしょうか。
教育指導主事	学校規模によって全て同じではないのですが、学習支援員を市費で配置しています。できるだけ２人体制の授業をして、もう１人の先生が、勉強が苦手な子に対してサポートしています。学校によっては、宿題は朝すぐに提出して、できていない部分は解るまで一緒にやってから、クラブ活動などに行かせるなど、中学校においては帰りの会の時に毎日計算勉強タイムをしていまして、そこにはその学年の所属の先生が全部入って解らない子ができるまで教えて、解るようにして帰すという取組みを地道に毎日毎日繰り返しております。
岡本委員	最後に、今行っているその取組みに対して、先生の数は足りていますか。
教育委員会事務局長	授業について行けない子どもが多くなってきておりますので、現場とのギャップもありますが、学習支援というかたちで、市費の講師を各学校の状況に応じて配置しています。先ほど、岡本委員がおっしゃられたように、中１ギャップ、小１ギャップもあるということで、中１ギャップ、小１ギャップのないように早くから小学校、中学校又は幼稚園、小学校の連携をはじめて頂いております。小学校の先生が中学校に出向く、また中学校の先生が小学校に、幼稚園の先生が小学校にという連携を強めて頂いております。また、小学校は小学校、中学校は中学校ではなく、共に研修をして頂いており、研修も増やして頂いているのが現状でございます。
寺澤委員	１０頁のところですが、いくつかのグラフによっては格差、違いがかなりあります。中学校の校長や関係教科の先生方にこうした統計をお見せして、自分の学校の課題や問題点を明確にしてもらうとか、その様な指導はしたのか、その指導を受けた先生方の感想はどうだったのでしょうか。
教育長	自己申告シートや評価制度が始まっていて、それぞれの校長、教頭と私たちと連携させて頂いていますが、その時にこれを校長と教頭に返して、学校間の差を減らしていきたいということや、これらを分析して、来年の課題にしてもらっています。
寺澤委員	特徴的な事について事務局でこうだと思います、こういう点が、ということを添えられるようにグラフ化して配ったらもう少し親切になるのかなと思います。
市長	そうですね、こんなにも数字が変わるのですから、何か原因がありますからね。
巽委員	このアンケートの結果はそれぞれの学校には返していますか。例えば、市全体じゃなくても、そこの学校だけでもいいのですが、４月と１２月で、どの様に現場に返しているのでしょうか。
教育指導主事	２月の校長会におきまして各学年の結果をグラフ化したものを返させて頂いています。それと合わせまして、自己申告シートの面談の時に、グラフ化したものでそれぞれの学校の状況が分かる形で校長と教頭に伝えさせて頂いています。もうひとつ、宇陀プランの各学校の研究主任の先生方にも同じグラフを渡しています。

吉川委員	グラフを活かす方法として、良かったデータについては、良かったところはどのような取組みをして、どのような成果があったのかということを他の学校とも情報の共有化をして、例えば、どの小学校、中学校もここだけはどうしてもクリアできないと、全国平均とかで下がっているところは宇陀市だけで考えるのではなく、奈良県の教育委員会や、良く似たデータを参考にして取り組んでいるところ等に聴いてみたり、情報の共有化をしていないのでしょうか。
教育長	今年、学力向上プランという県の事業で学力向上のモデルケースというかたちで、宇陀市で小学校１校、中学校１校を指定していただいています。先日も研究所でその２校が発表しまして、その事を宇陀市の他の学校にも啓発しています。教育大の先生に講評をして頂きながら、全体の良い所、悪い所を研修に使わせて頂いています。それが、学びの総合プラン事業において指導をして頂いて、自分のところで活かしてもらうという事で、モデル的に色んな分野に別れてしてもらい、全体に伝えていきたいと考えています。
吉川委員	小学校の指導は中学校まで続いていくだろうと思っています。小学生の指導方法をいかに充実するかで中学校もそのままいくのではないかと思っていますが、いかがでしょうか。
教育委員会事務局長	吉川委員のおっしゃられたとおり、小学校での低学年のつまずきがやはり高学年から中学校にも出てくるということで、小学校３年生を対象に放課後に１時間程度学力を支援するというかたちで、平成３０年度の予算を計上しているところです。
教育総務課長	小学校３年生に限らず、放課後の勉強の取組みはしようと思っているところです。良い所、悪い所というのが学校ごとにあるかと思います。宇陀市としましては、どこの学校でも同じ様な授業を受けられる環境を目指していますので、上手くいかないと逆に悪いことも広がる可能性もありますので、何が良かったのか、何が悪かったのかという事はきっちり点検をして、全ての学校で同じ様な授業が受けられる環境を目指していきたいと考えています。
教育長	あくまで勉強ばかり教えていくのではなく、身体をつくって、心の部分も鍛えて、遊ぶ時はおもいっきり遊んで、知・徳・体をバランス良くしていくことが宇陀市の子どもたちにとって大事な事なので、そこを踏み外さないようにしながら、あまり勉強が何点とかではなく、面白い、楽しいから学ぶという方向付けを心掛けたいと考えています。
市長	色々なご意見を頂きましたが、まとめていただけますか。
教育長	今ご意見を頂きました様に、この課題を分析した部分に焦点の合うようにして、この活用した部分を活かしながら現場と一体化して、中学校へ行ったらこんな力が大事だから小学校の時からしましょうとか、全学年でその事を共用してもらうように、保護者に学校に来ていただけるように、学校の方と協力して保護者への働きかけが出来たらなと思います。
市長	それでは、次の議題に進めたいと思います。次の議題、幼小連携・接続について説明して頂きたいと思います。
教育総務課主幹	＜「就学前教育の充実をめざして」～幼小接続に関する宇陀市の取組～について説明＞ ・宇陀市教育大綱の基本方針２の夢を育む教育環境づくりに、学校等の適正配置と就学前・小・中連携、一貫教育の工夫と推進を掲げ、平成２８年度から取り組む。 ・平成２８年度及び平成２９年度に榛原東幼稚園と榛原東小学校が県指定のモデル校として取り組む。 ・子どもたちや保護者の不安解消のため、次の項目における交流を組み立てる。

	⑴　知りたい・伝えたい（子ども、教職員、保護者の側面から） ⑵　つながりたい（子ども、学びの側面から） ・幼少接続と小中接続をつなぎ、強化し、就学前から高校までの教育を切れ目なく繋ぐ。
市長	今の説明に対してご意見をいただけますか。
巽委員	先月、市内の保育所、幼稚園、こども園の先生方が県や全国で報告された発表、研究されてきた事を、市内の保育所、幼稚園、こども園の先生方がお互いに研修する場があったので行かせて頂きました。他市町村では本当に幼稚園と保育所というのはなかなか合い入れないものがあると聞いています。宇陀市の場合はそれがスムーズにいっていると思います。それは人事交流だけではなく、こういう研修の場も一緒にしているという事が大きいと思いますし、ベテランの園長先生もいれば、主任さん、そして若い保育士さん、あるいは教諭の先生方も一緒に研修の場に参加しているというのがすごく良いなと思いました。今、就学前が１つになっているということは、このような事を積み重ねてこられた結果だと思いました。 もう１つは、１３頁の宇陀市幼小接続カリキュラムは大事だと思います。例えば、小学校就学前にどういうアプローチがあって、そして、小学校がスタートしたら、こういう目標を持って先生方がやっておられますと、１つ見たら分かるカリキュラムを出されているので、ある程度家庭と関係のあるところは保護者にも示した方が良いのではないかなと思います。これは、幼稚園、保育所、こども園、小学校だけの問題ではなく、家庭生活で養われることもすごく大きいので、せっかく作ったカリキュラムなので、ある程度分かり易い言葉で渡したらいいと思います。 もう１つは、研修会の時に思った事ですが、研修の場で幼稚園から保育所まで一緒に研修することで、小学校、中学校に入ってから少なくとも２極化が減ると思っています。できる子とできない子との差を縮めるのはどこかと言ったら、もうここしかありません。家庭で差がつくことはありますが、先生方が意識して園、所は違っても家庭生活のせいにはしないで、ある程度私たちで頑張るんだと、２極化を防げる力を持っているということを伝えたいなと思います。 あと、３つの力に分けている中で、年長さんになると、人と関わる力というのはどうしても少ない人数の幼稚園では育ちにくい力だと思いました。やはり、みんなの前で自分の思いがしっかりと伝えられる力、人と関わる力など、年少の時は個々に小さい力でつけていても、年長になったら小学校に行くまでのステップとしては少人数の幼稚園では弱いと感じます。
寺澤委員	保育所と幼稚園、厚生労働省と文部科学省の違いで、これからこども園化が進んでいく中で、奈良県でこども園の指導に関わる指針や色々なものを作らなければならない時期だと思って、先月末に奈良県へお願いに行ったところですが、宇陀市は上手くいっているので喜んでいます。歴史的に見たら、今から４０年近く前ぐらいに、大宇陀がこども園ではなく幼児園という名前を付けて、全国で１番早く取りかかられた経緯があって、給与体系も違うし、勤務体系も違うし、その中で当時の大宇陀町の教育委員会や皆さんで苦労されて何とか良いものを創られたのだと思います。この様な経験が宇陀にあったからとだと思います。その頃勤めていた人もこの１、２年の間に退職して、そういう思いを持った先生がいなくなる。こども園の経営や、こども園の職員の在り方など様々な事について、奈良県待ちではなく、宇陀市で試行錯誤しながらでも作り始めても良いと思います。奈良県ができたら後からそれに合わしていったらいいと思います。
教育長	奈良県の教員系の教育指導というプログラムを成長段階に応じて何を求めているの

	かと作っているので、それを幼稚園、保育所、こども園版ができたらまた具体的なものにしていけるようにと思っています。
吉川委員	幼小接続というのは重要な取組みだと思います。あとは、保護者と交流をして、宇陀市の幼稚園、こども園、保育所に入ったら良いという印象を持ってもらえたら、宇陀市に住んでみようかなという人が増えて、人口増加に繋がるし、相乗効果が生まれてくるのではないかなと思います。そのためには、幼小接続事業の取組みというのは、重要な役目を果たしているのではないかと思います。単なる言葉だけの取組みに終わるのではなくて、真剣に考えて頂いて、そして、将来の宇陀市を明るい宇陀市にするような取組みになるように是非とも頑張って頂きたいと思います。
岡本委員	私は、市長の最初のご挨拶にもあった様に、出生率が１００人あるいは１００人を切ってくる中で、老朽化した建物の早急な建替え、適正配置というのが、非常に急務になってくると考えていますので、少人数ではなくて、大人数の中でのびのびと子どもを育てていく事が大切ではないかと思います。そういう事で建物の早急な建替え又は合併、統合をして頂きたいと思います。
教育長	幼小連携で幼児教育にスポットを当てながら、「子どもは宝」という意識を持ちながら、幼・小とパッケージで子ども達を見ていける幼・小・中連携というのが問われているのかと思いますので、そこを重点的にしていけたらと考えています。
市長	最後に、その他の項目で何かありましたらお願いします。
教育総務課長	前回もその他で自由な発言を頂きました。今回も宇陀市教育行政の課題と題しまして、少子化、学校の適正配置、給食センターの建設等、教育行政の課題について自由なご意見を頂けたらと思います。お配りしている資料の中には現在の宇陀市の生徒、児童、５歳以下の子ども達の人数がどの様な状況になっているかを、合計の欄で示しておりますのでご覧ください。
寺澤委員	３年続いて小学校が４０人ずつぐらい減っています。４年目は５０人以上減っています。今年は、２３１人卒業して、私立に行かないで入ってくる子どもが１８９人ですから、この差が４０人、その次の年も４０人ぐらいです。現在の３年生２１８人が卒業した時、入ってくる子どもが１４０人ですから、この時に激減します。難しい課題があると思います。
市長	その議論は昨年の市政報告会でもしたのですが、１０年後には中学校を１つか２つぐらいにしないといけないという話をさせて頂いています。
吉川委員	これを見たら、毎年子どもが減っていきます。１つの考え方だとは思いますが、例えば、これを１つにまとめるのはいいのですが、まとめられた大宇陀、菟田野、室生にしたら学校が無かったら人が寄って来るかなと、学校は榛原に行かなければならない。だったら、もう榛原に住もうかとなると、地域自体が衰退していかないかなと思います。年寄りばかり残って、若い子がいなくなると思います。こういう１つのデータを元にして、これからはある程度人を受け入れる１つの施策を考えてもらうのが良いと思います。１０年後には今の半分の子どもしかいない事が分かっているのだから、１０年後に増やす方法は何かないかと考えていかないといけない時期だと思います。
市長	大きな社会的な話です。宇陀市だけで解決できる問題ではないと思います。国もなかなか地域の現状というものを分かっているようで分かっていないと思います。２０１６年と２０１８年の国民の満足度の統計をしたら７４パーセントに上がったらしいです。国民の７４パーセントの方が満足しているということは、変化を好まないということです。何をするにしてもこれからはハードルが高いと思っています。

巽委員	外に向けての情報発信が薄かったかなと思います。色々な所に行った時に、「どこから来ているの」と聞かれたときに「榛原」と言いますが、「榛原ってどこ」とまずかえってきます。長谷寺と室生寺の間って言うと「あー」と言われます。難波から帰る時に私が２時間ぐらいかかる田舎に帰ると思われます。京都まで行かなくても名古屋から東京に行けることを言ったら驚かれますし、特急が停まると言うともう１度驚かれます。あまり知られていないと感じます。特急も停まるし、近鉄の沿線ですし、駅から家に車で帰る方には不便かもしれないですが、案外知られていないなと思いました。
市長	やはり宇陀市の総合力を底上げしなくてはならないかなと思います。家庭においても、教育の場においても宇陀市に住んでいるということに自信と誇りを持ってもらうように、地域の良い所をもう少し見出していけたらと思います。 色々ご意見頂いた事を、この総合教育会議の中で議論すべき問題もありますし、また教育委員会の中でもしっかりフォローして頂いて、子ども達の総合力の向上に繋がるようにお願いしたと思います。 また、今回、学力・体力の向上のための予算付けも少しさせて頂きましたので、それをしっかり有効に活用できるように努めていただけたらと思います。多岐にわたるご意見を頂いたのですが、これをしっかり教育委員会の事務局で、そして教育関係者を推進するようにしっかり激を飛ばしていきたいと思います。
総務課長	次回の会議の開催時期については、調整の上、追ってご連絡させていただきます。
市長	ありがとうございました。